

正月のお遊び

おきな

學校も、幼稚園もお休だし、お父さんも、お母さんも姉さんも兄さんも、皆さんが家に入らっしゃるし、さあ、何して遊ばうか知らん……こんなお遊びはどうでしょう。

問ひ落し

皆が甲乙の二組に分れて、兩方からお甲ちやんと乙次郎さんと一人づゝ子供を出す。お甲ちやんと乙次郎さんは外へ出て、二人で相談して何でもよいから一つの物を考へて又お室へ這入つて来て、そして甲組から出たお甲ちやんは、乙組の方に、乙組の人は、お甲ちやんに、甲組の人は乙次郎さんに向つて何を考へて來たのかを問ひ當るのです。

そして、甲組の人が、乙組よりも前に問ひ當てたら、乙次郎さんを、甲組の方へ取つて仕舞らし、又乙組が前に問ひ當てたら、お甲ちやんを乙組に取つて仕舞ふ、そして又更に、兩方の組から、人を二人出して、始めます。

名盡し

二三人寄つて、木なら木、魚なら魚の名盡しを始め。先づ木盡しで申しますと、一人が松といへば、次が梅、次が櫻といふ風に、そしてだん／＼言つて仕舞つて、仕舞に木の名が言へなくなった人は何か罰を受けるといふ風にするのです。

ホワイト、ゲーム。

これは、前の二の様に、一寸は教へられないんです、お正月のこつたから、大負けに負けてお教へ申しませうか。

先づ、遊ぶ人が五六人あるとして、一人が外へ行つて隠れて居ます。其間に、残つた人が皆で相談して、其人が二度目に這入つて来た時、問ふものを決めて置く。そこで、夫が決つたとする、(何でも宜し、其お室にあるものなら、例令ば、こゝでは、火箸と決めたとして置きましょう) さあ、よしと相圖をすると、前の人が其座へ戻つて来る。

そこで、先づいつて置きますが、此隠れた人と、夫から、残つて居る人の中で一人問ふ人とは、此遊戯の秘訣を知つて居るのですよ、そして、つまり他の人をでまかさうといふのです。

さて、隠れた人が其處へ戻つて来て、さあわてましよう、といふと、残つて居た中で一人問ふ人が、そこへ出て聞きます。何からでもよし、例令ば、こゝにある本ですか(答いーえ) 夫では、鐵瓶です

が、(答いーえ) ランプですか (答いーえ) 此白紙ですか(いーえ) 此火箸ですか(左様) といつて當てます。勿論、隠れて居たのだから、火箸ときめたのを知らう筈もなし、又問ふ人が、前以て火箸を決めるよといつて置いた譯でもありませんから、他の人は、皆不思議に思ひます。

夫なら、も一度といつて、前に隠れた人を二度外へ出して置いて、あとで何か決めて置いて、よしといつて呼び入れて、再び、前の問手が、じゆんくんに、其邊のものを問うて行って、終はりに、夫では、美ちやんの白い前掛ですかと問ふ、いーえと答へる、次に何か決めて置いたものを問ふと、今度は、夫ですといつて言ひ當てる。そこで、残りの人は、尙更、不思議に思ひます。然しこゝまで、申しますと、皆さんは、はあ分つ

た」と大概は御了解になつたと思ひますから此手品の種は、申し上げる必要がないかも知れませんが、念の爲めに、一應説明して置きます。

つまり、これは、問ふ人と問はれる人との間に以前から、チャーインと内約があつて、だん／＼問ふて行く中に、こちらで決めて置いたものを知らせる工夫にしてあるので、ホワイト、ゲーム（白遊び）といふのは、そこから取つた名です。即ち、そこいらに在るものを、片端から問ふが、皆いーえと答へる。そして、今度何か白いものを聞いたら最後、其次に問ふものが、即ち決めたものだといふことを二人で前から決めて置いて在るものです。だから、他の知らない人に問はれては、とても答へる譯には行かぬのであります。

いって見ると、詰らないですが、まあ二人で一つや

って御覽なさい、きつと、他の人は吃驚しますから。まあ、之丈にして置きます。

お多福會

林 天然

ある年のお正月、どこかで福々しい大勢のお多福さんが、お芽出度も親睦會を催しました。時は一月の第一日であつて、寒いにも寒いにも肌を裂くといふ、極々寒い時節であつたけれども、宇宙万象皆新まるといふ時ですから皆んなニコ／＼顔、愉快の外には何にも無い、怒もなければ智慧もない、嫉妬もなければ心配もない、誰一人ブツツラするものはありません、で當日は午前十時から皆タブ／＼と出掛けました、来るお多福も来るお多福も、も一皮一ぱいに肥えて居る、何んでも